

「福澤育林友の会」ニュース

第9号 発行日 2006年1月10日

福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45

慶應義塾 管財部 管財課

TEL 03-5427-1532

FAX 03-5427-1533

http://www.f-ikurin.jp



2006年を迎えて

(財) 福澤記念育林会
常任理事 海瀬亀太郎

元旦には、可愛い犬の写真やイラストの入った年賀状を沢山頂き、古い友人や最近お付き合いの始まった方々のお顔を思い出しつつ楽しい時間を過ごしました。また多くの方々から市町村合併による新住所表記のご案内も頂きました。(財)福澤記念育林会の山林も市町村合併の対象となった所在地の山林が多くありますが、今までの村が突然に市となり戸惑うことも多々あります。

今年秋に、研修旅行で訪れる予定(P3参照)の黒羽町も大田原市となり那珂川の清流の町を想い出す黒羽の地名が消えてしまい一抹の寂しさを感じさせられます。

さて(財)福澤記念育林会(以下育林会と記す)は1966年に創設され今年で41年目を迎えますが、この会が最初に活動を始めたのは翌1967年栃木県那須町伊王野の国有林を借受けて実施した植林です。

この植林には育林会の高村象平理事長始め育林会の役員、林業三田会代表者が参加されましたが、特に慶應義塾大学体育会山岳部の現役学生が、自分の父親より年配の山岳部の諸先輩や体育会主事の照井伊豆氏に見守られながら、アルプスならぬ那須の山でピッケル代わりに鋤を片手に、植林に励んでいた姿が今でも鮮明に記憶に残っています。

この時に植林した杉や桧は、生育途上で豪雪の被害に遭遇したものの、その後たくましく成長し今では40年生の立派な森林になっています。

植林後40年に当たる今年には、この那須の山林を精査し利用可能な木があればその木材を活用し慶應義塾のキャンパス等に設置する休憩用ベンチの製作等も検討したいと考えています。実現できれば学生達が植林した木が、製品として後輩たちの為に役立てる事が出来る初めての試みとなるだけに今から心踊る想いでいます。

今年(犬)年です「Dog Year」という言葉がありますが、世界がまた日本が超速のスピードで自然回帰に向け劇的な革新を遂げ、森林にとって素晴らしい時代が到来する夢を見つつ新年を迎えました。本年も皆様方にはお世話になりますが宜しくお願い申し上げます。



目次	
2006年の新年を迎えて	P1
石川県尾口の森を訪ねて	P2
今後の予定 講演会・旅行	P3
寄稿(志木の森)	P4

石川県尾口の森

可憐な花を付ける
ツリブネ草トンネル残土
処分地に植樹

「石川県尾口の森～岐阜県白川郷」旅行記

2005年9月10日小松空港を出発したバスは今回お世話になる三谷充氏にご案内を頂き石川県白山市(旧尾口村)に向った。絶好のドライブ日和で、遠くから望む白山の山並みが美しく、移り変わる景色を眺めている間に昼食場所の「簡保の郷 白山尾口」に到着した。ここで「蕎麦定食」の昼食を頂いた後「尾口の森」に向った。

ダムサイトに沿った林道を通り目的地まで2キロの地点でバスを降り、清々しい空気を胸一杯に吸込みながら散策を楽しみ「尾口の森」に向かった。9月初旬にも拘らず既にこの地は秋の気配が迫っており、オニヤンマが飛び交い、道端のツリブネ草の群落が可憐な紫色の花を付けていたのが印象深かった。

30分強で「尾口の森」に到着、林内の歩道を上がると「石川県尾口の森」と記された看板の前に到着、この森には落葉性広葉樹が自生し昔は薪炭林として活用されていたとの事であった。林内はクヌギ類が多く見られる外に、ホウの木等も自生していた。山を下りダムサイトで小休止の後「白山スーパー林道」に向け出発。途中「白山自然保護センター」に立寄り白山の植物や野生動物を収録し

海瀬亀太郎





たハイビジョン映像を觀賞し、展示品などを見学した後、一路「トヨタ自然学校」に向けて出発。林道から見える各所の滝は、夏の少雨の影響で水量は少なく水枯れ一歩手前の状況で残念だった。

夕暮れが迫る中、今夜の宿舎「トヨタ白川郷自然学校」に到着、同校校長の稲本 正氏から世界の森林や同氏が運営するオークビレッジでの育林活動や家具造りのお話をお伺いした後、夕食では新鮮な素材を使ったフランス料理と山葡萄のワイン等を頂きながら、和気あいあいと白川郷の夜を楽しんだ。夕食後はロビーで慶應義塾大学商学部長の桜本光教授から中国と日中共同研究でなされた康平県での植林とバイオリケット工場などのお話を伺い充実した第一日を過ごした。



翌日は生憎の雨模様の天候でしたが、朝食前の早朝、周辺森林のトレッキングに出発。インストラクターから勧められ葉っぱの香りや味を試しながら、樹木の用途や性質を聞きながら時間を忘れて森の散策を楽しんだ。朝食後出発準備を整えた後にトンネル残土処分地に植樹を行った。この残土にはトンネル掘削の為に使用された土質改良剤の影響で、アルカリが強く植物の育成には適さない土壌であるが、白川郷集落の茅葺屋根の廃材など有機物を土壌に埋め込む事により土壌改良されていた。ここは豪雪地帯のため苗木が雪の被害を防ぐために、苗を垂直に植えるのではなく地面に寝させる形で植えることを教わるなど新たな教訓を得た。

トヨタ自然学校に別れを告げ、世界遺産白川郷の集落内を散策し昼食の後、名古屋に向けて出発、途中、御母衣ダムの建設に伴い湖底に沈むことになった樹齢450年以上と言われている光輪寺と照蓮寺の桜を移植した荘川桜がある道の駅で小休止し、オプションコース参加者は愛地球博会場やトヨタ博物館に向かった。



【今後の予定】

第5回森を愛する人々の集い

2006年6月17日(土)

(財)福澤記念育林会では来る6月17日(土曜日)養老猛司氏を招き講演会を開催する計画を立て準備を進めています。詳細は追ってご案内を申し上げますが計画の概要は以下の通りです。今からご予約を頂き、ご家族、友人お誘い合わせのうえ是非ご参加ください。



講師 養老猛司先生

プロフィール 1937年神奈川県鎌倉市生まれ。現在、北里大学大学院教授、東京大学名誉教授、特定非営利活動法人「ひとと動物のかかわり研究会」理事長。独特の環境論や無類の昆虫収集家としても有名。著書は、科学哲学から社会時評まで多数。『ヒトの見方』『唯脳論』『涼しい脳味噌』『超バカの壁』『解剖学教室へようこそ』『無思想の発見』『マンガをもっと読みなさい 日本人の脳はずばらしい』『こまった人』『死の壁』

秋の研修旅行「栃木の森を訪れる旅」

2006年9月9日(土)～10日(日)

9月9日～10日にかけて栃木県の森を訪れる計画を立てています。

第1日 東京から貸切りバスで那須に向けて出発、当地には(財)福澤記念育林会が創立間もない1966年に始めて植林した那須町の伊王野山林の他、1976年に慶應義塾大学を卒業された方々が卒業25周年を記念して2001年に植林をした「友情資産25年の森」など多くの山林があります。今回はこれらの山林を訪れるとともに、古の昔から奥州への交通の要所として栄え、また俳人「松尾芭蕉」が愛した那珂川町(旧黒羽町)を訪れ、同地名物の鮎の梁漁を楽しんでいただき、夜は那須山麓の温泉でお疲れを癒すとともに懇親を深めていただく予定です。

第2日 明治の元勳、山縣有朋が創設し、現在は4代目に当たる山縣睦子さん(註)が経営する山縣農場を訪れ、山縣有朋記念館や同氏が手塩を掛けて育成されている山林の一部を拝見後、美味しいお弁当の昼食を頂く予定です。その後、江戸時代末期から続く益子焼きの産地を訪れ陶芸工房で陶芸体験に取り組んで頂く計画を進めています。

未だ構想の段階ですが、現地の事前視察を実施するなど、有意義で楽しい旅にすべく事前準備を進めて参ります。ご期待ください。



友情資産25年の森



鮎の梁漁



山縣有朋記念館

(註)山縣睦子さん(やまがた・むつこ)新潟市生まれ。昭和22年に明治の元勲山縣有朋のひ孫である有信氏と結婚。昭和49年有信氏急逝の後、山縣農場の経営に携わる。昭和58年(社)日本林業経営者協会婦人部会会長(現職)に就任。元県選挙管理委員会委員。元県森林審議会委員。現在、(財)森とむらの会理事、MORIMORIネットワーク代表、(財)山縣有朋記念館理事長、栃木産業(株)代表取締役を務める。矢板市在住。著書『木を育て森に生きる』(草思社)他

志木の森

「生徒たちが植林や下草刈りを通じて自然に対する認識を深め、育林や森を造っていく喜びを味わうと同時に、地元の高校生等と交流を深める場にしたい。」このような趣旨の下、平成6年、本校第11期卒業生で林業家である吉田善三郎氏より1.12haの山林が本校に寄贈されました。当時の慶應義塾常任理事(財)福澤記念育林会理事長)長島昭先生と当時の校長であられた鐵野善資先生による現地視察、教員間での検討の結果、平成8年より、有志の学校行事として現行の「志木の森ツアー」が行われるようになりました。その後、翌平成9年には生徒会内部に「志木の森運営委員会」が発足し、学校主体から生徒主体の行事へと移行しています。

また、様々な種類の樹木が植えられた志木の森は、同年、自然林に近い人工林は「里山」、スギ、ヒノキを中心とした人工林は「深山」とそれぞれ命名されました。

現在、善三郎さんのご子息であり慶應義塾大学総合政策学部ご出身の吉田正木氏が経営されている「吉田本家山林部」のご協力を得て、毎年2回、春と夏に「志木の森ツアー」が実施されています。このツアーの内容は、主に植林や森林の手入れ、観察、プロット調査(樹木の樹種・樹高・根元及び胸高直径の測定)を行うことです。また、森林作業に加え、大自然のもと、レクリエーション活動も充実しています。世界遺産に指定された「紀伊山地の霊場と参拝道」である熊野古道のハイキングに始まり、野外料理(バーベキュー、流しソーメン、バームクーヘン作り)、カヌー、サイクリング、釣りなど、幅広い活動をしています。ツアーも10年目を迎え、最初の年にはハゲ山だった場所に植林された「里山」も、本格的な雑木林になり深い緑に覆われています。残念ながら今年の志木の森ツアーは台風の為、予定していた活動の多くが実施できませんでしたが、その分春のツアーへかける生徒たちの意気込みは十分なようです。

このツアーでは、森林での作業だけではなく、森林そのものへの理解を深めることが非常に重要な位置づけになっています。実際の作業を行う前に、愛知県自然観察指導員連絡協議会理事である松尾初氏の講演を聴講し、現代の森林を取り巻く状況や生態系などを含む幅広く理解を深めています。多くのことを理解し、作業を体で覚えるにはこのツアーだけでは少々短いが、理論面と実践面の両方を体得でき、かつレクリエーション活動も充実した非常に有意義で密度の濃い活動です。

(慶應義塾志木高等学校教諭 森山徳之)

* この文章は、過去の「志木の森ツアー」の生徒記録を参考にしています。



プロット調査の様様



手作りバームクーヘン